

東北で見たこと、思ったこと 18人の証言

グループわの支援チーム17人と振興協会に同行した昔遊び研究会メンバーが、ひと言ずつ語る「東北で感じたこと・思ったこと」――。

海野龍英 田んぼの再生がいかに難しいか、現地へ行ってよくわかった。ガレキ除去など、いい経験になった。自炊がなく、食文で磨いた腕をお見せできなかったのはちょっと残念…。

内村ナナ子 町なのに家が無い。人もいないし、花もない。あるのはガレキの山だけ。哀しい光景だ。でも、数日、田んぼを手伝って東北が好きになってしまった。「こんどは、ここにお嫁にこようかな」。

片岡隆夫 あちこち、ボランティアに行ったが、ヘドロを生かした田んぼの再生というプロジェクトは初めてだ。意義ある活動だったし、期待された以上の成果があったと思う。

平林啓子 いい出会い、いい経験ができた。昔遊びを手伝った時、保母さんから「皆さんのおかげで、子供たちも明るく元気になった。こんどは65歳以上の方への支援をお願いしたい」と言われた。

小澤輝彦 阪神大震災の際、私の職場は東北の人はずいぶん世話になった。「今度は自分の番だ」と思って真っ先に手を挙げた。もう少し長い期間、手伝いをしたかった。次があるかな。

道満俊徳 田んぼ作業は、大して期待されていなかったようだ。初日の作業を終えたとたん、先方の態度ガラッと変わり、力強い握手が返ってきた。私たちのパワー、熱意に脱帽、という感じだった。

水嶋和信 三陸海岸を山越えて気仙沼まで走った。マグロ漁船が入っており、一見、魚市場が再開したかと思ったが、冷凍設備など港の機能は全く回復しておらず、余計わびしさがつのった。

芦田義和 家が倒壊しても生活の臭いが残っていた阪神大震災と違って、大津波は根こそぎ生活を奪ってしまう、ということが実感できた。いい経験ができ、参加してよかった。

清野明 気仙沼の海に護岸の残がいの柱が何本か立っていた。南三陸では満潮になると道路が冠水する。いかに地盤沈下がひどかったかの証だ。里山

での作業経験がガレキ除去に役立った。

渡邊佳視 病弱な私は、自分自身への挑戦だと思って東北へ行った。自信もついたり、強力な仲間もできてうれしい。昔遊びの公演は、どこへ行っても子供たちに歓迎され、感激した。

古後健一 わのおかげで、念願の東北被災地へ行くことができた。神戸の児童館・小学校を回り、子供たちから集めた「激励メッセージ」を、現地の子供たちに読んでもらうことができてよかった。

大澤貞男 昔遊び公演で、笑顔の子供たちと数日過ごしたあと、大川小の校舎を見に行ったら大ショックを受けた。慰霊塔の前で、「この子たちとも一緒に遊んでやりたかった」と感無量の涙が…。

増金スミ子 芸は身を助けるというが、私は南京玉スダレや動物風船で、被災した子供たちとも楽しい時間を過ごすことができた。ボランティアは天職と思って、いつも一生懸命やっている。

黒本茂弘 多数の児童が亡くなった大川

小の現場に立つと阪神大震災とイメージが重なり、涙が止まらなかった。昔遊びで、子どもたちから「また来てね」と言われて嬉しかった。

内田たみ子 どの児童館でも、子供たちが昔遊びをしながら、本当に笑って、喜んでくれたことが何より嬉しい。皆さんのおかげで、楽しい思い出がたくさんできた。行ってよかった。

飯川泰郎 震災直後、仙台の知人女性に連絡を取ろうとしたがどうしてもダメ。これは自分で現場を見なきゃ、と参加した。知人とは、帰宅後、無事でいることが確認できた。（ああ、よかった）

南形徹 かつて伊勢湾台風の高潮に襲われ、濁流の中を逃げ惑った経験がある。三陸の被災現場に立ち、ガレキと化した町の惨状を肌で感じ、大自然の猛威・津波の怖さを改めて思い知った。

田邊瑩子 東六郷小（仙台）で一緒に遊んだ子供たちの笑顔が忘れられません。多くは両親を亡くし、心に深い傷を受けた遺児。これからどうなるのでしょうか。〔早く笑顔を取り戻してね〕と祈るばかりです。

（写真＝7月17日夕方、カレッジで壮行会）

